

【経緯・緯線の表し方】

附圖の第二十二圖は平射圖法で、圖の中央が縮まつて周圍が大きくなる。半球圖は通例この法を用ひる。第一圖第二十一圖はメルカトル式で、南北兩極附近が非常に擴大されるが、世界全圖や海圖に多く用ひられる。第十六圖の支那、第十八圖のアジヤ、第二十圖の北米・ヨーロッパ等はボンヌ氏投影法で、局部の地圖に最も多く用ひられる。日本の部分圖は皆これである。又第十八圖のアフリカ・濠洲、第二十圖の兩米は似球圖法、第二・三圖は圓錐圖法である。経緯線の曲直に注意すればわかる。

【眞上から見下した形】

地圖は地面を眞上から見下した形に描くのではあるが、悉くそのまゝの形に描けるものではない。空中寫眞と地圖とは違ふ。即ち都邑は◎や四角形であらはず、鐵道はふえまきにし、航路は點線で示し、寺は卍、神社は鳥居の形、學校は文の字の形といった風に、多くの事物は悉く記號で示すのである。

然るに『地圖の種類によつては記號によつてそれ／＼の事

物を示してある』とあるのは誤解を招き易い。

恰も記號を用ひる地圖は或特殊の地圖であつて普通の地圖では無い様に聞える。凡そ世間に全く記號なきの地圖なるものが存在するであらうか。

兒童の持つて居る地理附圖にしても悉く記號の集りではないか。それともあれは『特殊の地圖』だと云ふのか。『種類によつては』こんなものもあるといふのか。どうもこれは不都合な書きぶりである。

いさを縮めて描くのであるが、地球の表面は球の表面のやうになつてゐるから實際の形そのまゝに、平たい紙面に描き表すことがむづかしい。それ故方向距離面積などの中いづれを最も實地に近づけて描くか、その目的如何によつて、経緯線の表し方が違ふ。隨つて圖面上では方向や距離や面積などの表はれ方が實際と違ふことがある。

地圖では山川都會等地表の事物はすべて眞上から見下した形に描いてあるのが普通である。又地圖の種類によつては記號によつてそれ／＼の事物を示してある。

尋常小學地理書卷二より

【晝夜・四季の表れ方】 (挿繪)

地軸はその軌道に對して六十六度半の角度を保つてゐる。そのために四季の循環と晝夜の長短とが出来るのであつて若し地軸が軌道に直立してゐたら、晝夜の交代はあつてもその長短や四季の區別は起らない。

この圖は斜め上から見下した形であるが、兒童は平面と考へ易いから必ず模型によつて示さなければならぬ。三球儀が無いならば机の上に蠟燭を立て、古ボールに編物針をつき刺したものに經緯線を書き入れて地球とし、これを回轉せしめて實驗するがよい。

軸の傾いてゐる方向が常に一定であることに注意を要す。

【大體きまつた道】

地球の公轉する道、これを軌道といふ。軌道は大體一定して居て、極めて圓に近い楕圓である。そして太陽はその楕圓の焦點の一に居るから、地球は時として太陽から遠かり、時として近づくといふ結果を來す。併しそれによつて四季の別が出来るのではない。四季の區別は地軸が傾いて居るために、太陽の光線を眞直に受ける時と斜めに受けるとき

地球の表面



尋常小學地理書卷二より

を生ずるからである。

【西から東に】

地球の自轉が西から東に向ふことは容易に了解が出来るが公轉が西から東に向ふことは少しく説明が面倒である。

蓋し宇宙には西も東も上も下も無いわけであるから方角の立て様は無い。そこで北極星の方から見て、地球は太陽の周圍を『右から左へ』廻るのだと云へばよい。自轉も北極から見れば左廻りなのである。

【ほぼ二十四時間】

地球が一回轉するに要する時間は年中一定して居ない。地球が太陽に遠い時は一日の長さが短かく、近い時は長くなる。故に一年間を通じてこれを平均したものを一日と定めそれを二十四等分して一時間と定めたのである。但し地球が純粹に一回轉するに要する時間は一定してゐるのだが、太陽に對する回轉の上から見てこの相違が出来るのである。

【日附變更線】

これは頗る難解の教材である。これを完全に兒童に了解せしめることは殆んど不可能であらう。中學校の五年生の教材にあるが、十五分間や二十分間の説明では眞に理解する生徒は極めて少數である。嘗て文檢の問題に出たけれども完全に答へ得た人は極めて少かつたと聞いて居る。それに教科書の説明は誠に簡單で要領を得て居ない。十五度で一時間づゝの差が出来るのはよいとして、それだから『處によつては二十四時間即ち満一日の差が』出来るといふのは、同じ經線上即ち例へば千葉と秋田とは一日の差が

出来て、千葉の一日は秋田の三十日になるといふことは、一寸簡單には理解が出来ぬ。そしてその次に『随つて同じ地球表面において日附が一日違ふから』と云つても、千葉と秋田は同じ日附を用ひてゐるから、一寸も差支は無いと誰でも思ふ。列國の申合せの必要が了解されない。こんな難解な教材は削つてしまつて標準時の説明でもした方がよくはあるまいか。

晝夜の別が起り、一周によつて四季の別が生ずる。地球はほぼ二十四時間に一回轉するから、地表の地點はこの間に三百六十度をめぐり、随つて一時間には十五度をめぐり、割合になる。それ故に經度十五度を隔てた甲の地點と乙の地點との間には、時間に一時間の差が出来る。

東京は東經百三十九度餘であるが、グリニチに比べると九時間餘早い。即ち東京の午前九時はグリニチの午前零時頃である。

かやうに經度十五度の差で一時間の差が生ずるから、處によつては二十四時間即ち満一日の差があらはれる。

尋尋小學地理書卷二より

【日附が一日違ふ】

日附變更線について別の云ひ方を試みる。

東京の午前八時はニューヨークでは午後六時である。東京を一日とする時、ニューヨークはその日の午後六時であるか、それともその前日の午後六時であるか。ニューヨークが東京よりも早いとすれば同じ一日の六時となり、ニューヨークの方を遅いとすれば三十日の六時とせねばならぬ。地球は圓いから何處に一日の始まりも無ければ終りもないが、それでは日附の定め様がない、何處かに區切りをつけ、そこを一日の始まりとし、それから西は次第に後れると云ふことにする必要がある。そこで太平洋の眞中に境目を置いて、そこを日の始まりとすれば、日本は先づ世界で一番早く日の出る國である。日出の國、日東帝國の意味がそれで生きて来る。それから次で支那の朝が来る。印度・ロシア・ドイツ・イギリスと順次に夜があけて、アメリカが最も後れて朝になる。そしてアメリカの日の暮れる頃、もう日本は第二日の朝となるので、日本の午前八時はニューヨークではその前日の午後六時なのである。

尋尋小學地理書卷二より

る。随つて同じ地球表面に於て日附が一日違ふから列國は申合せせて、大體百八十度の經線を境として、西から東にこれを越えた時には前日と同じ日附にし、東から西に越えた時には翌日と同じ日附にして、日附をそろへることにしてある。この境となる線を日附變更線といふ。

季節は赤道の北と南とで反對になつてゐる。例へば我が國の夏はオーストラリアの冬で、オーストラリアの

それだから日本の午前八時の出来事をアメリカへ電報で知らせると、アメリカでは前日の午後それがわかることになる。大正十二年九月一日の東京大地震が、桑港では三十日の夕刊に乗つた。そう云ふわけだから日本からアメリカへ行くものは、日附を一日あとへ戻さねばならぬ。日附變更線を太平洋の中央に置いたのは、人の通行の最も少い所を選んだのである。故に百八十度線のみと定めないので、半島や島を便宜の方へ加へてある。

【北熱帯・南熱帯】

普通にこんなことは云はない。赤道を境にすると云つても一続きなのであるから、南北に分つ必要もないと思ふ。所謂五帯とは熱帯が一つと温帯寒帯が二つづゝあるからであつて、熱帯を南北に分つならば六帯になるわけだが、これは世間一般に通用し兼ねる。

【氣候帯】(挿圖)

南北二十三度半の線を回歸線と云ふ。これは地軸が二十三度半だけ傾いて居るために、太陽の光線の直射する範圍がこゝまでであるので、云ひかへると太陽の位置は、赤道の直上から北又は南へ二十三度半の處まで進んで行き、又もとの赤道上に歸るので、回つて歸るから回歸線と云つたのである。即ち北緯二十三度半の地點では、一年に只一回六月二十一日に太陽を直上に仰ぐ。それから南の方では一年に二回づゝ太陽が頭上を直射するわけである。そして十二月二十一日に南回歸線上を直射する。太陽が南回歸線上にある時、北緯六十六度半の處では全く太陽が地平線上にあつてそれ以上に上らない。六十六度半

以北の地では終日太陽を見ないことになる。これに反してこの時南緯六十六度半以南の地に於ては、太陽は終日地平線下に没しないで二十四時間の晝になる。五帯の區別は斯く太陽と地球との關係を基としたもので、決して氣候を基としての區別ではないから、これを氣候帯と云ふのは當らない。

氣候帯に就ては年平均温度二十五度以上の地を熱帯、零度以下の地を寒帯、その中間を温帯と定めた人がある。



尋常小學地理書卷二より

【氣温が高くて暑い】

氣温が高いといふことゝ暑いと云ふことは大體一致するものではあるまいか。『氣温が低く寒氣が強い』も重複した云ひ方の様である。

尤も氣温は高くても風が吹けば涼しく、氣温が低くても運動すれば汗の出ることもあるが、こゝではそんな意味を云つて居るのではあるまい。

二行目の『て暑い』三行目の『氣温が低く』を削つたがよからうと思ふ。

【水と陸との分布、海流などの影響】

水陸分布の状態によつて所謂大陸的の氣候と海洋性の氣候とが出来、又海流の存在によつて大に氣温が變化する。

一般に大陸の東岸が寒く西岸が暖かいのは主として海流の影響によるので、ヨーロッパとアジアとは殊に著しい對照をなす。即ちイギリスと北部カラフトとが同緯度にあることに注意すべきである。

又一般に南半球よりも北半球の方が氣温が高いのも、水陸の分布が主原因である。廣い海の中にある小さい島は、た

尋常小學地理書卷二より

熱帯地方は太陽に眞上から照され、一般に氣温が高くて暑い。寒帯地方は太陽の光を甚しく斜に受けて、一般に氣温が低く寒氣が強い。しかし氣温は水と陸との分布、海流などの影響を受けて非常に變化するものであるから、同じ緯度にある處でも甚しく違ふことがある。温帯地方は一般に氣候が温和で、人類の生活に適してゐる。

尋常小學地理書 卷二。

とひ熱帯でも温帯の夏ほどの暑さを感じない。

【地理學究の目的】

地理學は自然現象と人文現象との相互の關係を研究するものであつて、これによつて人間の自然に對して適應する状態を知り、文化發展の方式を考究し、世界に於ける一先進國としての日本が、全人類の共存共榮のために、如何に後進を指導して行くべきかの原則を知ることが最後の目的である。

【附録に就て】

この附録は舊版には無かつたものであるが、卷一と對比してやはり出した方がよいといふことになつたのであらう。併しそれにしても朝鮮は十三道の名稱、臺灣は五州三廳の名を出した方が便利であつたかと思ふ。

この表の取扱方に就ては本書尋五用にも述べた處であるが行政區劃に關係の無い舊國名などは殆ど必要の無いものと云つてもよく、無論兒童に記憶を強ひるべきではない。

行政區名	管 轄 區 域	行政區所在地
北海道廳	北海道・樺太・千島	札幌市
本 州	本州の北緯三十四度以南の地	東京府
支那總督府	支那島及びその屬島、澎湖羣島	北京
朝鮮總督府	朝鮮半島及びその屬島	漢城府
關東廳	關東島	關島
南洋廳	カロン群島・マレー群島、及びマラナナ群島の大部	シラヤ

尋常小學地理書卷二より

校小學地理科教授法私見

著者は嘗て某縣下に於て數年間視學委員として小學校の地理教授を見て廻つたことがある。その時に驚かされたことは、著者が尙小學校に奉職して居た頃に比べて、その教授法の如何にも進歩し改善せられて全く隔世の感あることであつた。たゞ遺憾に思つたことは、教材の研究の不徹底なこと、教授法が技巧に走る傾があつて兒童に底力を與へることの不充分な點にあつた。それから已に數年を経た今日、更に一段の進歩を見たことは慥かであるが、一面中等學校入學準備に編まれて、教師も兒童もこの科を等閑にする様な傾も見られる。切に當事者の覺醒と努力とを願はざるを得ない。こゝに教授法に關して二三の私見を述べるが、已に多くの人に云ひ盡されたことのみで、敢て新しいと云ふ程のことは無い。故に詳しい議論は避けて要點のみを書きつける。新に教育に従事せんとする方には多少の参考ともなり得るであらう。

【地圖中心主義】

教科書を中心として、それに附屬する附圖を用ひるといふ考を根本から打破して、地圖が本體であつて教科書はその附屬物といふ様に考へさせ度い。

「小學地理附圖」といふ名稱からしていけない。

地圖を読むこと、地圖を描くこと、この二つが教授の中心でなくてはならぬ。随つて地圖とノートが最も大切な學習用具である。

教室用の掛圖は日本全圖と世界全圖とを常掲して置けばそれでよい。細かいことは兒童の所持する

地圖で研究させる。それで不足することは教師が黒板に描けばよいのである。

グラフの流行も聊か下火の感があるが、單に棒を並べたり、四角形を區分したりする様なグラフは効果が少ない。地圖と結び付けて地圖の上に量の變化を表はし、空間的分布を一目瞭然たらしめる分布地圖に全力を注ぐべきである。

尙郷土については陸地測量部の五萬分一地形圖を用ひて、地圖の基本觀念を養はねばならぬ。

【推究的創造的學習】

説明——理解——記憶、といふ様な教授の形式は二昔も前のこと、今頃は疑問——研究——發表、といふ様な順序でやる様になつた。

凡てが推究的であり、又兒童の頭から云へば創造的でなくてはならぬ。

與へられた問題又は自ら作つた疑問に發して、自ら研究しようといふ動機を起し、材料を蒐集し、これを整理して自分の力相應の解決を求める。それを發表させて他の兒童と討議研究せしめ、教師の補助によつて正しい解決に進み、更に一層高い疑問に導くといふ風の教授法でなくてはならぬ。

他から命ぜられなくとも、殊更教師から興味喚起なんかなくても、兒童自ら研究しようとする心が不斷に起る様にしなくてはならぬ。

【實驗實習】

内に訴へての學習は効果が多くて永續的である。

百の説明よりも一の實驗の方が効果がある。實地に見聞し、實際に體驗した知識は、確實であつて底力がある。

讀圖も一つの實習である。描圖もとよりよく、測量もよい、統計も自ら種を取り、集計し、製表してこそ効果が多い。室内の實習、室外の實習、野外の觀察、不斷の觀測等、あらゆる種類の實驗實習を課するがよい。そのために多くの時間を費して、教科書が後れるといふ人があるならば、それは教科書の取扱方がまづいのである。

野外の一時間は時に教科書による數十時間にまさることがある。

【郷土中心主義】

郷土は世界地理の縮圖である。

先づ郷土から確實に出發しないと、あらゆる地理教材が架空のものとなり易い。必ず比較の對稱を郷土に求め、終始一貫郷土に立脚して行かねばならぬ。

單に郷土を以て教授の豫備と考へてはいけない。五年生の始めにのみ數時間を割いて郷土地理を教へるなど云ふのは、郷土を虐待するの甚しきものであると云はねばならぬ。

郷土は地理學の練習場である。

あらゆる地理學の理法は悉く郷土に適用することが出来る。又そうしなければならぬ。そうしてこそ始めて郷土地理が生きて来る。

郷土を地理の練習場と考へ、あらゆる場合に郷土に歸着し、こゝに郷土に對する正しき批判を得るに至つて、眞の愛郷心なるものは生れ、眞の愛國心なるものは培はれるのである。

郷土から出發するものはあつても、郷土に歸着することを忘れるものが多い。

たとひ千萬里外の事實を研究するにしても、常に心を郷土に止めて、足もとを明かにし、根柢を堅くすることが何よりも必要である。

【能力陶冶主義】

多くの教材を羅列し、無暗にこれを詰め込んだとて結局生きた字引に過ぎない。

殊に變動の甚しい教材である。今日の知識が明日の役に立たぬこともあり得る。

こゝに於てか所謂地的能力の陶冶を高調せねばならなくなる。如何に事實が變化しても、直ちにこれを知り得る能力、如何なる新事實に當面しても、正確に判斷し、適切に順應して行く能力、それが地理教育の狙ひ所でなくてはならぬ。

極端に云へば教材は凡て方便である。材料である。手段である。能力陶冶の目標を忘れて方便にのみ墮してはならぬ。

【模式的教材】

こゝに於てか模式的の教材に主力を注ぐ必要が起る。凡ての教材に就て眞に徹底させることは時間が許さぬから、せめては模式的の教材に主力を注ぎ、ほんとうに心ゆくばかり徹底させることを考へる。

そうすれば他の類似教材はあまり力を入れなくてもよい。

例へば理科に於て植物を教へるにしても、あらゆる植物を皆教へるわけには行かぬ。あれも必要、これも大切と云つて居れば、際限はないが、思ひ切つて模式的なもののみを残し、他は悉く捨てるか、或は單に附加するに止める。十字科植物では菜の花、禾本科では稻と云つた風に。

地理科でもこの心持が肝要である。全日本を、全世界を悉く教へようとするから、蛇も蜂も逃げてしまふ。あれも必要、これも大切に相違はないが、そんな老婆心が兒童を損ふ。思ひ切つて類似教材を割愛せねばならぬ。

或頁には數時間、或時間には數頁、その教材を如何に都合し、鹽梅して行くかと云ふ處に、教授者の手腕も要すれば、又興味も湧くわけである。

模式教材案 (尋 六)

これは著者の經驗によつて考案した模式教材の一案である。まだ未定稿であつて幾多の改正を要すると思ふが、單に一案として茲に掲げる。讀者はこれを参考として更に一段の工夫を加へ、以て完全なものを作り上げられんことを望む。追つて模式教材の参考資料は他日纏めて公にする積りである。

尙これは六學年及び高等科とも連絡をとり系統を立てたものであるから、その積りて見て頂きたい。

市	都	通	交	業	産
放射形街	井形街	交通都市	河港市	城	市
札幌市		運河	橋港	築港	陸運
				仁川の開門式築港	
大連市				網日本の鐵道	
	ルンガポー				北
					京
	ハンブルグ				
					ロンドンの開閉橋
					パナマ運河
					大農法
					リオストラの牧羊

治政	民住	候	氣	勢	地	要
國境	永久的移住	多雨地	無雨地	少雨地	氣溫	山
人爲國境	季節的移動					交通河
	漁民移動					灌漑河
						水力河
						海瀧岸
						海岸線と交通
						日本の河の利用
			凍原			揚子江
			草原の生活			
						ナイル川
						スイスの山水美
						アマゾン
						ナイヤガラ
						北アメリカ
						南アメリカ
						大洋洲
						ブラジルの移民

修正地理書卷二批判

今回の修正については、本書前巻に於て述べた所と重複する點を避けて、極めて簡単に批判を試みたいと思ふ。

【内容の革新】

内容は前巻と同様極めて新しい。統計は依然昭和元年度の數字を採つてゐるが、これは前巻との比較對照上わざとこうしたのであらう。面積や距離がメートル法によつてあるのも結構なことで、この點は前巻に於ては尙改正されて居なかつたので、日本列島を一千二百里、朝鮮半島を二百餘里、わが總面積を四萬三千餘方里と記してあることは遺憾であると本書の前巻にも記して置いたが、本巻に於てはこの點はよくなつた。

支那の北京を北平(九二頁)とし、京奉線を北寧線(五四頁)京漢線を平漢線(九七頁)と改めたなども可成り新しい方であるし、わが定期航空路の記事を入れて立川大阪間の飛行時間を記した(八一頁)なども中々抜目なく新しいものである。

併し新しいと云つても地名の改稱などは注意を要する場合がある。舊版に於てソ。ヴ。イ。エ。ト。聯。邦。といふ國名を採用したのを、今回ロ。シ。ヤ。と逆戻りさせたなどはその一例で、正しくはソ。ヴ。イ。エ。ト。聯。邦。といふはロシアで通用させて居るから仕方がない。中華民國と云はないで支那と云ひ、『大ブリテン及び北アイルランド合衆王國』などと云はないでイギリスと呼ぶのと同様、これはロシアでも差支へないと思はれる。

それと同様の意味から前巻に於て『はなむしろ』を『くわえん』とされたのはよかつた。本巻に於ても『からすむぎ』(舊八頁)が『えんばく』(新七頁)になつたのは非常に結構であると思ふが、たゞ甜菜を『てんさい』としたのはどうしたわけか。これも世間に通用してゐる『ビート』に訂正さるべきであつたらう。

序ながら本書の前巻一五五頁に於て、『山口市が立派に市と記されてゐる』と述べて置いたが、これは文部省發行の原本には立派に市になつてゐるのであるが、どうしたものか翻刻發行の供給本には町となつてゐる。恐らく翻刻者の方では、この頁には改訂は無いと早合點して、新版を起さないで古い紙型をそのまま使つたものに相違ない。書店の無責任も極まれりと云はねばならぬが、文部當局もまだ御承知ないものか、書店が叱られたといふことも聞かないし、本年度の供給本にもやはり町のまゝとなつてゐる。

【分量と順序】

卷一の方は舊版よりも九頁を減じて百四十四頁となり、卷二の方は反對に舊版よりも七頁を増して百八十九頁となつたから、結局兩卷の差が舊版の二十九頁が新版では四十五頁となつた。紙數ばかりで内容を云々するわけでは無いが、この開きは相當に大きいから、六年生擔任の教師は餘程注意しないと學年末に間誤つく様なことが起るであらう。

順序に就ては關東州の次に『我が南洋委任統治地』を入れたことは極めて妥當である。從來の様に大洋洲の處で説くのが妥當であるならば關東州も支那の部で説くべきであらうし、准領土としての關東州を日本地理で説くならば南洋も同様にせねばならぬとは、私の嘗て論じた處であるから、この修正は双手を擧げて賛成するわけである。

たゞ世界地理の順序がこのまゝで適當であるかどうかは頗る疑問で、内容の單純な南米やアフリカを先にして、複雑なヨーロッパの如きを後にする方がよくはないかと思はれる。これは中等學校の方でも大問題になつてゐることであるが、小學校の教材としても同様に考慮すべき問題であらうと思ふ。次の修正に於ては是非何とか解決されたいものと要望して置く。

【誤謬の訂正】

舊版が夥しい誤謬を有して居たことは驚くべき事實であつた。これに對して私は本書の舊版に於て細かに指摘して置いたが、今回の修正に際してはそれ等が殆ど完全に修正せられた。これは實に編者が虚心坦懐よく私共の希望を容れられたものと感謝の外は無い。今二三の實例を擧げると、

舊版の誤謬

- 一、那須火山脈と千島火山脈とが出合つてゐる處(三頁)
- 二、雨が少くて牧畜に適し(八頁)

新版の訂正又は削除

- 一、那須火山脈が南北に通つてゐる(三頁)
- 二、馬の牧畜が盛で(七頁)

- 三、産業の進歩するにつれて鐵道も次第に延長し(一一頁)
- 四、石炭の産地は平壤附近だけで(四五頁)
- 五、西南に向ふ大分水嶺は……筑紫山脈を……(五七頁)
- 六、農業は古來我が國第一の産業となつて(六三頁)
- 七、世界で一二を争ふ養蠶國で(六五頁)
- 八、鴨綠江流域……のとどまつ・えぞまつで(六六頁)
- 九、羊毛は全部……外國から輸入(六八頁)
- 一〇、いわしかつをは暖流の流れである太平洋近海(六八頁)
- 一一、中アジアの平地を流れる多くの川は大ていこの湖に入る(八三頁)
- 一二、松花江は……南から北に流れて(九四頁)
- 一三、東部・中部の諸國では家畜の總數が各其の國の人々よりも多い(一一八頁)
- 一四、アンデス山脈の北の部分は山脈が幾すぢにも分れて(一四五頁)

- 三、削除
- 四、石炭は平壤附近が主産地で(四六頁)
- 五、削除
- 六、古來我が國の重要な産業と(六六頁)
- 七、世界第一の養蠶國で(六八頁)
- 八、鴨綠江流域の……とせんまつ・からまつ・もみ(七〇頁)
- 九、羊毛は殆ど全部……外國から輸入(六九頁)
- 一〇、いわしは全国各地の近海で(七二頁)
- 一一、削除
- 一二、松花江は……北滿洲を灌溉して(一〇〇頁)
- 一三、削除
- 一四、削除

これ等は多くは編者の考へ違ひか又は間違つた見解の下に書かれたものであつたが、新版に於ては右の様に訂正又は削除されて居る。この外尙統計上の誤りや、あまりに古い事實で時勢に合はないものなどもあつたが、それ等も概ね削除又は訂正されてゐる。

【残された誤謬】

併し著しい誤謬で尙残されてゐるものが二三に止らない。即ち蝦夷山脈と千島火山脈とを一しよにして『これ等兩山脈』舊二頁、新二頁と云つて火山脈は山脈の一種で火山の山脈なのだと思はしめる。

『國境の邊に長白山脈』舊三七頁、新三八頁が連なると云つてゐるのは滿洲の山脈を朝鮮で説くもので、文章そのものに誤りは無いが不適當な教材の提示である。

仁川は潮の干満が甚しいので『特別の設備』によつて『干潮の時』にも『船の出入が出来る』様にしてゐると云つてゐるが舊四〇頁、新四二頁これは仁川に於ける閘門式の築港が何のために施されたものかを全然解しない人の言で、編者に對する尊敬の念を著しく薄からしめるの已むなきものがある。

朝鮮は『雨量が少い。上に』舊四一頁、新四二頁樹木の保護が行届かなかつたから山林が荒れてゐるといふが、雨量の少いことは森林の荒廢に關係してゐるとは思へない。

にしんは『寒流の流れてゐる。北海道樺太の近海』に多いと云つてゐるが、必ずしも寒流の流れてゐる所と限らない。寧ろ暖流の流れてゐる西岸に多いのである。

ロシアの本國、領地の區別舊一三一頁、新一三八頁は何を標準としたのか了解に苦しむ。ヨーロッパをロシアの本國とする理由は何處にも發見されない。

『地圖の種類』によつては記號によつてそれぐの事物を示してある『舊一七七頁、新一八四頁』とはどう

いふものか、記號を全然用ひない地圖なるものが存在するか、空中寫真と地圖とは同一ではあるまい。

以上の如きは是非訂正されたい重要な箇所である。

【新しき誤謬】

新しく附加された誤謬も亦一二ある。平壤は平壤の誤植四〇頁に過ぎないが『たひは暖流の流れてゐる。太平洋近海』七二頁に多いと云つたりしたのは何から割り出したのかわからぬ。蒙古は『沙漠か又は不毛の荒野』(一〇七頁)だと云つたのも妙な言ひ方である。

【挿繪の更新】

挿繪やグラフの類は可成り思ひ切つて更新された。即ちこれを一表に纏めて見ると、

種別	舊教科書にある總數	そのまゝのもの	更改されたもの	除かれたもの	新しく加へられた數	新教科書にある總數
地圖	一八	三	一〇	五	二	一五
断面圖	四	三	一	一	一	三
寫真類	一三五	一〇五	一九	一一	三	一五五
グラフ	二六	一	二	二	一	二五
説明圖	三	三	一	一	一	三
合計	一八六	一一五	五二	一九	三四	二〇一

即ち舊教科書にあつた總數に對して約一割削除せられて二割ほど附加せられ、又三分の一足らずは更改せられて眞に面目を一新し、尋五用に於ては舊版よりも減少したのに本巻に於ては反對に増加し、總數に於て尋五よりも約七十個多いことになつてゐる。これが一面に於て頁數の増加した原因ともなつてゐるのである。

【寫眞類】

削除されたものは概ね古い寫眞で現状と相距る遠いものであるか、或は地理的に見て重要性の乏しいものである。併し中には『仁川ドック水門の外側』(舊四〇)の様に特殊築港の模様を説明するに便利なもの、『上海の紡績工場』(舊八八頁)の様にわが海外投資の狀況を窺ふべきもの等が除かれてゐるが、これは如何にも惜しいことと思ふ。

これに對して新しく加へられたものを見ると、『木曾川にあるダム』(新六四頁)、『かに工船内の作業』(新七二頁)、『立川にある飛行場』(新八〇頁)、『最新式蒸氣機關車』(新八一頁)、『新郷放送所』(新八三頁)等の様な割合に新しく且つ珍らしいものが多く、又『黄河の鐵橋』(新八八頁)、『揚子江の上流』(新九六頁)、『ゴビ沙漠と隊商』(新一〇七頁)、『アルプ山中の牧場』(新一二五頁)、『オランダの風景』(新一四〇頁)等の様に地理的意義の極めて深いものも少くない。併し『大西洋航路の大きな汽船』(新一七七頁)の如きは『我がアメリカ航路の大きな汽船』(新八二頁)と殆ど同じもので、全く蛇足の感がある。

除かれたものは産業に關する七、交通に關するもの二都會に關するもの二であるが、附加せられたもの

は産業十一、交通七、都會七、風景二、風俗一となつてゐて、その結果挿繪の全體から見て種類も多くなり趣味も豊かになつたと思はれる。

更改されたものを見ると、『苦小牧に於ける製紙工場』(舊九頁、新一〇頁)の様に殆ど同一の場所ではあるが新しい寫眞と取りかへられたもの、『高雄港』(舊二四頁)が港の大觀を示してゐたのを、『高雄港に於けるバナナの積出し』(新二六頁)として全く圖の目的を變更したものが、中でも『灌漑の一方法』(舊二六頁、新二七頁)の様に不明瞭で全く役に立たなかつたものを明瞭なものとして取りかへたり、『土人』(舊一六七頁、新五七頁)の様に目的は同じでも全く別寫眞によつて一層効果を大ならしめたもの、『サンフランシスコ港』(舊一四九頁、新一五八頁)の様に寫眞も取りかへ彫刻法も改良して一層面白くしたものの等の少くないのは殊に喜ばしいことである。

これを通觀すると寫眞類は概して鮮明にもなり、面白くもなり、數も増したからその効果は一層大であらう。たゞこれを如何に活かすかは、一に教師の手腕によるものである。

【地圖とグラフ】

地圖の中誤謬のあつたものは概ね訂正された。『札幌の市街の圖』(舊一三頁、新一四頁)、『日本の山系の圖』(舊五七頁、新六〇頁)の如きはその例である。又事情の變化に伴ふ當然の改刻には、『臺北の市街の圖』(舊三四頁、新三五頁)の如き例があり、不明瞭で効果の薄かつた『臺灣製糖工場分布』(舊二八頁、新三〇頁)なども改正され、『内地に於ける水力發電所の分布』(舊六二頁、新六五頁)がメルカトル式圖法を用ひてゐた

不都合もボンヌ氏圖法に訂正されたのは結構なことである。

削除されたもの、中でも『大連港の圖』(舊五四頁)は繪の『大連』(新五六頁)で代用が出来るし、『世界の航路の圖』(舊一七〇頁)は附圖にあるから不用であるが、地勢と交通施設との關係を示す『ハンブルグ港の圖』(舊一二二頁)や『サンゴタルド附近の鐵道線』(舊一二二頁)は惜しいこと、と思ふ。殊に後者は卷一に於ても肥薩線のループ式軌道の地圖が除かれたのであるから、是非保存して置きたかつたと思ふ。『森林の分布の圖』(舊九頁)が除かれて、『米の分布』(新八頁)が加はつたのはよいが、御自慢のドットマップもドットの價を忘れられては臺なしである。

断面圖の中の誤謬はまだ訂正されなかつた。削られたのは『パナマ運河の断面圖』(舊一五〇頁)でこれは尋五の琵琶湖疏水の模型圖と共に惜しいことである。グラフが新しい統計によつて殆ど全部改正せられたことは當然のことである。

【結語】

これを要するに今回の修正は、事實の變動に基づく當然の修正の外に、舊版の誤謬が大部分訂正されたことは實に結構なことである。併しなほ多少の誤謬も残されてゐるし、又教科書の本質から考へるともつと根本的に書き改めて貰ひ度い點もある。どうか次の修正には一大斧鉞を加へて完璧を期せられたいと希望して已まない。

教科書その後の修正

昭和七年の修正は極めて局部的で、單に變動事項の補正と新事實の添加に止まつた。中でも最も重なる修正は統計圖表を悉く書きかへて、昭和三年の事實によられた點である。それはその當時として一向驚くほど新しいことでもなく、寧ろ古きに過ぎると思はれたが、それにしても舊版の昭和元年よりは新しいのだから辛抱しなればならなかつた。誤謬の訂正されたものとしては、北海道の鐵道の説明が妙になつてゐるのがすつかり書き改められた。

それから新事實としては、羽田の空港が出来たので立川・大阪間とあつたのを東京・大阪間に改めたりした。又挿繪もセメント工場と函館港ととりかへ、立川飛行場と旅客飛行機ととりかへ、或は綿に關する繪が印度とアメリカ合衆國に二つと合計三つもあつたのを一つにし、一は茶摘に、一は日本人の果樹園に取りかへた如き、氣のきいた修正もあつた。

ところで今回更に第六回目の修正があつたが、これは主として滿洲國の獨立のために、從來支那の中で説かれた事項を別項としたのみで、内容的にはあまり大した變化は無い様である。滿洲と我が國との關係』(九九頁)の一項が從來無かつた位のものである。それ以外では所々にある都會などの人口とか、貿易品とかいふ様なものが比較的新しい材料によつて修正されてゐる。

併し統計圖表は依然として昭和三年そのまゝであるから、已に六年も前の事實となつて、現状とは可成り隔りのあるものが多い。國際聯盟發行の世界年鑑などによるとしても、昭和七年の事實が八年の夏頃にはわかつてゐたのだから、又わが國內の統計に至つては勿論それより早くわかるのだから、せめて七年頃の若くは六年頃の統計でも出されたらと思ふ。而も教科書の供給は非常に後れて、五月に入つてやつと兒童に行き渡るといふ風であつたのは、何と云つても驚くべき緩慢さだと云はねばならぬ。中等學校の教科書中には貿易統計などは已に昭和八年の數字を掲出して九年の三月には立派に供給してゐるものがある。お役所の仕事と民間の仕事にはこれだけの違ひがある。

據られた統計が古いために、本文の内容にも訂正を要する箇所が少くない。例へばわが國に米の不足することが強調されてゐるが、(六七頁)今日の様に過剰米が大問題になつてゐる場合、何としてもこのまゝ教へることが出来ぬ。何時でもニューヨークが世界一の貿易港であるなども寧ろ滑稽で、日本の貿易の如きも従來とは全く違つた説き方をしなければならぬ。

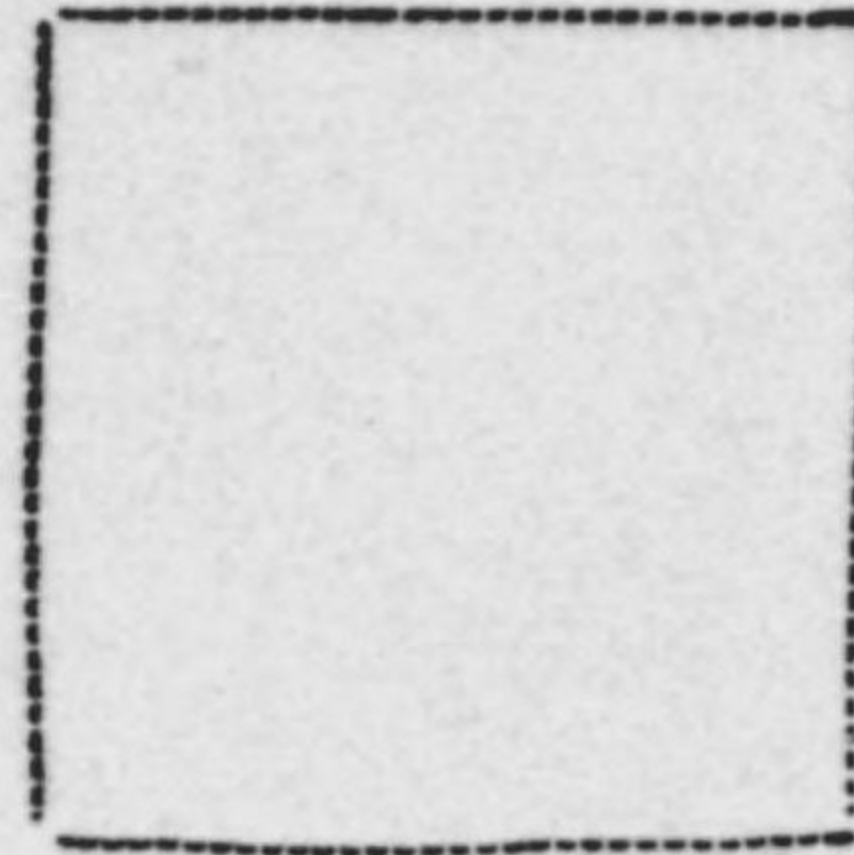
今更ではないが世は日に月に進んで止まない。教科書は常に何年か後れて駈走しながら追ひすが、状態である。故に教師は常に新知識の修得に敏捷でなくてはならぬ。そして何時も教科書を驅使するだけの自信がなくてはならぬ。困難なことではあるが、それでなくては世の中を指導する立場には立てない。

尙教科書中の誤謬については前版に於て指摘したところが今回は一向に訂正されてゐない。已に

數回の訂正を重ねて完璧に近づいたとは云へ、また明瞭な誤謬が數ヶ所、不適當な書きぶりが一二ヶ所ある。どうかこの次の修正にはこれ等も正して貰ひ度いものである。事實の變動は兒童も得心するから、いくら訂正して教授しても差支ないが、内容の誤謬に至つては兒童に對して教科書の權威を失墮することが大である。それだからと云つて間違つたことを教へるわけにも行かぬのだから、是非とも早く訂正されんことを切望して擱筆する次第である。

9. 6. 15

昭和九年六月十五日印刷
昭和九年六月十九日發行



具體化する
小學校用教材と教授法 第六
再訂版 【定價貳圓】

著者 西 龜 正 夫

發行者 岡 本 正 一
東京市麹町區下六番町四十八

印刷者 谷 口 熊 之 助
東京市麹町區土手三番町二十九

印刷所 厚生閣印刷部
東京市麹町區土手三番町二十九

發兌 圖書 厚 生 閣
東京市麹町區下六番町四十八番地

振替東京五九六〇〇番
電話九段三二一八番

具體小學地理
化せる
教材と教授法

西龜正夫先生著

★全三冊★

第五用 (改訂新版)

價 一圓九十錢

第六用 (改訂新版)

價 二圓

高一・二用

價 二圓六十錢

(送料各冊十二錢)

地理は生きた學科として、小學教育に於て最も重要視されねばならぬ。しかるに從來この地理教科教授が比較的等閑に附せられてゐたのは他に種々なる理由もあるが、主として地理の教材には適當なる参考書なく、又あつても極めて膨大にして直ちに教壇で役立たしむることは出来なかつたからである。茲に於て直ちに役立つ地理の教材書参考書が痛切に要求されてゐる。これ等の悲しむべき現狀に對し、我が地理學の權威西龜正夫氏は深く鑑みる所あり、尋常小學地理書兒童用を毎頁四分の一に縮寫して本書一頁中片隅に挿入し、該ページに對する主要教材の補説兒童の質問しさうな所、挿繪の解釋、新しい統計、教科書の誤謬に對する注意を遺漏なく同頁中に收めた苦心の著述を完成した。代價は犠牲的低廉である。尙卷末には著者の貴き體験の結晶たる地理科教授法の貴重なるテーゼを添へ指導書としては獨特のものである。正に全國各小學校は原則として必ず一本を備ふべき書である。

